

④ 生活・雇用

■ 災害公営住宅の整備・住宅再建支援

恒久的な住宅供給のために

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅(自力再建)及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。

そのうち、災害公営住宅については、平成31年3月末までに5,833戸の計画で5,672戸が完成しています。

災害公営住宅市町村別整備戸数		
市町村	整備予定戸数	うち完成戸数
洋野町	4	4
久慈市	11	11
野田村	100	100
田野畑村	63	63
岩泉町	51	51
宮古市	766	766
山田町	640	640
大槌町	876	866
釜石市	1,316	1,316
大船渡市	801	801
陸前高田市	895	895
その他市町村	310	159
合計	5,833	5,672

(平成31年3月31日時点)



大槌町安渡地区災害公営住宅 (平成30年12月完成)



盛岡市備後第1(9号棟)災害公営住宅 (平成30年10月完成)

災害公営住宅の整備状況 ▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kenchiku/saigai/kouei/1010345.html>

住まいの改修・再建 ▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kenchiku/saigai/saikou/index.html>

■ 被災者相談支援センター・いわて内陸避難者支援センターの設置

生活の再建に向けて様々な相談に対応

平成23年7月に沿岸4地区に被災者相談支援センターを設置し、生活再建に係る各種支援制度や今後の生活への不安など様々な相談に対応しています。弁護士などによる専門家相談も行っています。

また、平成28年5月にいわて内陸避難者支援センターを設置し、内陸及び県外に避難している被災者の住まいに係る相談に対応しています。



開設当初のセンター 釜石地区



被災者相談支援センター

久慈地区 ☎0120-934-755 / 宮古地区 ☎0120-935-750
釜石地区 ☎0120-836-730 / 大船渡地区 ☎0120-937-700

いわて内陸避難者支援センター

☎019-601-7640

■ 地域雇用の確保

被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を確保することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災者の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大120万円、求職者の雇入れのために要する住宅支援に係る費用に対し、1年間で最大240万円(最大3年間)の助成を行っています。

平成30年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,332人
平成25年度	7,900人
平成26年度	4,270人
平成27年度	240人
平成28年度	105人
平成29年度	87人
平成30年度	0人
合計	18,073人

⑤ 水産業・農林業

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、漁船や養殖施設、種苗生産施設等の復旧はおおむね完了し、震災前の漁業・養殖業の生産基盤が復旧しています。

今後は、漁業・養殖業の生産量の回復を図るため、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成、サケ種苗放流の継続、ワカメやホタテガイなどの養殖生産の効率化等に取り組んでいきます。



「漁業就業支援フェア」による漁業者と就業希望者とのマッチング支援(新規就業者の確保)



漁業者を対象とする経営能力向上のための研修会の開催(意欲ある漁業者の育成)



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(音部漁港)

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況			
区分	目標値	実績値	達成状況
漁船(累計)	6,693隻	6,485隻※	96.9%
養殖施設(累計)	17,480台	17,428台※	99.7%
サケ種苗放流数(29年度)	400百万尾	369百万尾	92.3%
アワビ種苗放流数(30年度)	890万個	784万個	88.1%
ヒラメ種苗放流数(30年度)	110万尾	116万尾	105.5%

※ 事業完了(事業期間:平成23年度~平成27年度) (平成31年3月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の振興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・貯氷施設、冷凍・冷蔵施設、水産加工施設等の復旧・整備など、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めてきました。

その結果、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、製氷・冷蔵能力はおおむね震災前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の約9割が事業を再開しています。

今後は、漁獲から流通・加工までの一貫した高度衛生品質管理体制を構築することで、産地競争力を高め、販路の回復・拡大を図るほか、加工技術の高度化による県産水産物の更なる高付加価値化を促進していきます。



大船渡魚市場 高度衛生管理型魚市場の整備(平成26年4月完成)

主要4港(久慈、宮古、釜石、大船渡)の製氷・冷蔵能力復旧状況			
区分	震災前①	復旧状況②	②/①
製氷	535 t/日	702 t/日	131.1%
貯氷	13,160 t	11,350 t	86.2%
冷凍(凍結)	1,691 t/日	1,771 t/日	105.0%
冷蔵	136,912 t	144,064 t	105.1%

(平成31年3月31日現在)



専門家による現地指導(高度衛生品質管理体制の構築)



「復興シーフードショーIWATE」の開催(販路の回復・拡大)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

風評被害対策と販路の回復・拡大

原発事故に伴う県産農林水産物の風評被害対策と、縮小した販路の回復・拡大に向け、全国の消費者・シェフ等を対象としたホームページ・ニュースレターによる情報発信や、大都市圏における復興レセプション・レストランフェア・商談会の開催、首都圏のシェフを県内に招聘した産地見学会の実施などのプロモーション活動に取り組み、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信を行いました。

しかし、依然として本県産農林水産物の購入をためらう等の風評被害があることから、引き続き、消費者の信頼回復と、県産農林水産物の販路の回復・拡大に向けた取組を進めていきます。



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催



岩手県復興感謝レセプションの開催



高品質で安全・安心な県産農林水産物をPRするニュースレターの発行

6

商工業・観光

■ 被災地における起業・新事業活動等の支援

さんりくの起業等促進と魅力ある産業の創出

若者や女性をはじめ、被災地において新たなビジネス立上げにチャレンジしようとする方への支援を行うことで、復興まちづくりに合わせたなりわいの再生を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」、平成28年度からは「さんりくチャレンジ推進事業」を実施していました。

平成30年度末までに合計141名の方がこの事業を活用して、起業や新事業活動の展開に取組みました。

本事業を活用し起業や新事業活動に取組んだ事例

- ・低糖類、低カロリーの健康志向スイーツ専門店の出店
- ・自社製造製品(トルコキョウ及び原木椎茸)の販路開拓等
- ・大船渡初の本格的アパレルデザイン事業のブランド展開
- ・ゲストハウスの開業と着地型観光窓口の開設



問合せ先▶▶ 復興局まちづくり・産業再生課 ☎019-629-6931

■ グループ補助金による中小企業等の再建支援

地域経済の早期復旧・復興に向けて

東日本大震災津波により被災された中小企業等グループの施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」を実施しています。

平成30年度までに延べ191グループ1,525事業者がグループ補助金を活用して復旧・復興を進めています。



大船渡市 グループ補助金により再開した商業施設

■ 「いわて復興パワー」による電気料金の割引

企業局の電力を活用した「震災復興」・「ふるさと振興」への支援

企業局の発電した電力を活用して、震災復興・ふるさと振興関連施策を財政的に支援するため、企業局と東北電力株式会社が共同で創設した「いわて復興パワー」により、被災地域の企業等に対する電気料金の割引を行っています。

平成30年度には、約560事業所に対して電気料金の割引を実施し、年間約1億8千万円相当の料金低減を行っています。

■ まちなか再生計画に基づく商業施設の整備

商店街の本格整備へ

「まちなか再生計画」に基づき、商業施設の整備と周辺のまちづくりが一体となって進められています。平成29年4月には、陸前高田市と大船渡市で大型商業施設が開業しました。そのほか、釜石市では平成30年6月に計画が国に認定され、鶴住居地区に商業施設を整備中です。

また、陸前高田市では、今泉地区での商業施設設置に向けて変更計画の策定が進められています。



アパセタかた(平成29年4月27日開業)



キャッセン大船渡(平成29年4月29日開業)

■ 復興の動きと連動した観光振興

観光入込客数は、おおむね震災前の水準まで回復

本県には、「平泉の文化遺産」、「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」の2つの世界遺産や「十和田八幡平国立公園」、「三陸復興国立公園」の2つの国立公園、さらには、「御所野遺跡」や「三陸ジオパーク」など、岩手ならではの観光資源が存在しており、これらを組み合わせた広域周遊滞在型観光の推進や、市町村における日本版DMOの整備・活動の取組、三陸DMOセンターとの連携などにより、観光人材の育成や観光資源を生かした観光地づくりが進んでいるところです。

こうした取組の結果、平成30年における県全体の観光入込客数はおおむね震災前の水準まで回復(沿岸地域はおおむね7割の水準)しており、特に外国人宿泊者数は全国の伸び率を大幅に上回り過去最多となるなど順調に増加しています。



「いわて花巻空港上海定期便」歓迎セレモニー

観光入込客数の状況

圏域	平成22年	平成29年	平成22年対比
県央(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町)	887万人回	950万人回	107.1%
県南(花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町)	1,140万人回	1,147万人回	100.7%
沿岸(宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)	582万人回	389万人回	66.8%
県北(久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町)	287万人回	272万人回	95.0%
合計	2,896万人回	2,759万人回	95.3%

外国人観光客数の状況

	平成22年	平成30年	平成22年対比
外国人延べ宿泊者数(全県)	83,440人泊	234,750人泊	281.3%

⑦
教育・文化・スポーツ

■ **「いわての復興教育」**

震災の教訓から得た
 3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』

県内全ての公立小・中学校・義務教育学校及び県立高等学校・特別支援学校では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「いわての復興教育」プログラムに基づき、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、震災津波の経験や教訓を踏まえ、副読本やいわて震災津波アーカイブ～希望～を活用し、各校の実情に応じた取組を展開しています。



「いわての復興教育」児童生徒実践発表会



震災学習列車の活用

『いきる』 震災津波の経験を踏まえた 生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
『かかわる』 震災津波の経験を踏まえた 人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
『そなえる』 震災津波の経験を踏まえた 自然災害の理解・防災や安全



副読本(小学校低学年用)

「いわての復興教育」▶ <https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/fukkou/1006326.html>
 問合せ先▶ 「いわての復興教育」教育委員会事務局学校調整課 ☎019-629-6206
 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」復興局復興推進課 ☎019-629-6945

■ **学校施設の新設・復旧**

教育環境の整備・充実

被災した学校施設の復旧を進めています。平成30年12月には、陸前高田市立気仙小学校が完成し、被災した沿岸部の公立学校86校の校舎全てが復旧しました。



陸前高田市立気仙小学校(平成30年12月完成)

■ **いわての学び希望基金**

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、23,080件、97億円(平成31年3月)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生の教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

問合せ先▶ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

■ **文化・芸術による支援**

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

国内外からの復興支援の一環として、現役最高齢のバイオリニストのイヴリー・ギトリスさんによる“復興の絆”コンサートを開催するなど、文化芸術の鑑賞機会や交流の場を提供しています。

また、被災地を対象に、小中学校などを会場にして、器楽演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演を行う「文化芸術による子どもの育成事業」を実施しています。

■ **ラグビーワールドカップ2019™開催への取組**

岩手・釜石開催に向けた取組の推進

平成30年8月19日に釜石鶴住居復興スタジアムオープニングDAYを開催し、スタジアムではオープニングイベント・メモリアルマッチ、釜石東中学校生徒等による合唱、キックオフ宣言、キッズラグビー、レジェンドマッチ等を行い、釜石市内で行ったパブリックビューイング等と合わせて約7,000人が観戦しました。

県では釜石市を含む全国12開催都市で開催されるラグビーワールドカップ2019™日本大会において、東日本大震災津波の際に世界中から頂いた支援への感謝の思いと、復興に力強く取組む姿を国内外に発信する絶好の機会と捉え、様々な取組を実施しています。



メモリアルマッチ(釜石シーウェイブスRFC VS ヤマハ発動機ジュビロ)



釜石高等学校生徒によるキックオフ宣言

「いわてかまいしラグビー情報」ホームページ▶ <https://www.rugby-iwate.kamaishi.pref.iwate.jp/index.html>
 問合せ先▶ 文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進室 ☎019-629-6796

■ **国際交流の促進**

海外との文化交流

県では平成30年9月27日～10月5日にラグビーワールドカップ2019™開催機運の醸成、国際交流の促進及び本県のラグビーの競技力向上を図るために、ニュージーランドのクライスト・カレッジ高校ラグビー部を招聘した交流事業を行いました。釜石高等学校を含む県内の学校訪問、交流試合・合同練習を通じたラグビーの交流、被災地での防災研修、ホームステイ等による異文化体験を行いました。



クライスト・カレッジ高校ラグビー部(平成30年10月4日)

■ **伝統文化等の保存・継承**

郷土芸能の復興支援

被災した郷土芸能団体の活動再開を支援しています。平成31年3月末までに被害を受けた74団体のうち70団体の支援を行いました。



白浜虎舞

8

地域コミュニティ

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPO等は、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動をはじめとした地域課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興・被災者支援活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、平成30年度は21団体に事業費助成を行いました。



助成事例 ① 「スポーツによるコミュニティ再生」

NPOが地区の公民館等を回り、身体を動かすことを切り口に共通の話題作りを行うことで、災害公営住宅や集約された仮設住宅における再コミュニティづくりに取り組みました。また、各種スポーツ教室の開催など心と体の健康支援に取り組みました。

助成事例 ② 「漁業集落8地区の協働による復興まちづくり」



NPOが8地区の漁業集落をつなぎ、行政等と協働しながら地域資源を活かしたまちづくりに向けて、漁業の魅力伝える体験ツアーを行いました。また、地域コミュニティの維持のため、園芸教室や心のケア等、高齢者の孤独化防止に取り組みました。

問合せ先▶ 環境生活部若者女性協働推進室 019-629-5198

■ 新たなコミュニティの形成支援

市町村のコミュニティ形成支援をサポート

被災された方が、恒久的な住宅へ移った後も、安心して心豊かに暮らせる生活環境を実現することが求められています。

災害公営住宅や移転先における新たなコミュニティ形成を支援するため、平成29年度から市町村及び被災者支援を行う民間団体等の調整役となるコーディネーターを配置し、市町村の取組を支援しています。



恒久住宅移行期コミュニティ支援ワークショップ (平成31年2月)

■ 若者・女性等の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主役

復興の取組にあたっては、女性、若者、高齢者、障がい者等の多様な視点が重要です。被災地では、若者・女性等が主体となった復興まちづくりや地域課題解決に向けた取組も進んでいます。

取組事例 多様な主体が語り合う「釜石〇〇会議」

多様な市民が世代や立場を超えて地域の魅力を語り合ったり、地域での暮らしをより楽しくするための新たな企画を立ち上げたりするなど、市民主導のまちづくりを推進しています。



実現したい企画を話し合う参加者



実現した「ワンダフル散歩(ワンポ)チーム」の企画



「釜石〇〇会議」集合写真

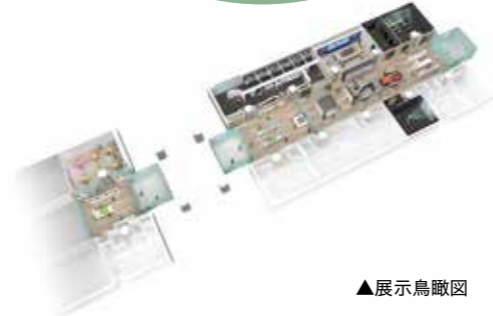
9

未来のための伝承・発信

■ 東日本大震災津波伝承館の整備

(愛称:「いわてTSUNAMIメモリアル」)

後世への伝承と防災教育への活用



▲展示鳥瞰図

東日本大震災津波の悲劇を繰り返さないため、今回の災害の事実を踏まえた教訓を後世に伝承するとともに、復興の姿を国内外の人々に発信することを目的として、陸前高田市の「高田松原津波復興祈念公園」内に、東日本大震災津波伝承館を整備しています。

館内では、「いのちを守り、海と大地と共に生きる」を展示のテーマに、三陸の津波被害の歴史や、東日本大震災津波の事実、震災から得た教訓などを学ぶことができる映像の上映や展示などを行います。

■ 「いわて復興未来塾」や「いわて三陸復興フォーラム」の開催

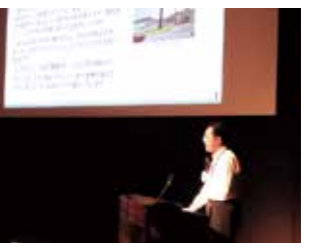
復興の今を伝え、復興への参画を促進

復興を担う個人や団体など多様な主体が復興について幅広く学び合う「いわて復興未来塾」を継続的に開催し、相互に交流、連携しながら復興の推進を図っています。

また、被災地域の現状や復興の取組についての情報を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を県内外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。



「いわて三陸復興フォーラム」in埼玉



平成30年度第1回いわて復興未来塾 (平成30年7月)

■ 復興動画「復興新時代をいわてから。」の制作

復興に取り組む岩手の姿を発信

東日本大震災津波で被災し不通となっていた、JR山田線の宮古～釜石間が経営移管され、3月に「リアス線」として開通した三陸鉄道。平成27年度から「ふるさと科」を導入し、郷土芸能の伝承活動や地域産業の体験、震災の教訓を今後に生かすための復興教育などに取り組む大槌町の小中一貫教育校・吉里吉里学園。

「被災地の今」を取り上げ、復興に取り組む岩手の姿を伝える動画を制作しました。

岩手県公式動画チャンネルURL▶ <https://www.youtube.com/user/prefiwate>



■ 岩手県知事 達増拓也 presents!

岩手県公式インターネット番組『いわて希望チャンネル』

震災の風化防止や、より多くの人々に本県への関心を持っていただきたいという想いを伝えるため、達増知事がメインパーソナリティを務め、インターネット番組『いわて希望チャンネル』を毎月1回、「ニコニコ生放送」で配信しています。

いわて希望チャンネルURL▶ <https://ch.nicovideo.jp/iwate-kibou>

いわて希望チャンネルFacebook▶ <https://www.facebook.com/prefiwatewebtv>

過去放送分はこちら▶ <https://www.pref.iwate.jp/kensei/kouchoukouhou/1001386/1001388.html>



10 全国・海外からの応援

■ 自衛隊による活動
 138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めてのことです。



行方不明者の捜索 大船渡市



音楽隊によるミニコンサート 田野畑村

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。

■ 消防による活動
 全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防救助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。



緊急消防援助隊 大船渡市



県外から被災地に到着した消防車群 陸前高田市

また、地元消防団員も、自ら被災した団員も多い中、被災住民の救助や避難所の運営支援、行方不明者の捜索活動などを行ったほか、近隣市町村の消防団員延べ1,400名以上による支援活動が行われました。

■ 被災市町村への職員派遣
 全国の自治体等から4,300人を超える人材を確保

今回の震災により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出などにより、平成23年度は171人を、平成31年3月までに4,300人を超える人材を確保することができました。現在も全国の自治体に協力を依頼しています。



派遣職員の職場の様子 (平成30年度、大槌町役場)

	必要人数	派遣決定数	一般事務					その他
			うち用地関係	土木	建築	保健師	その他	
平成23年度 (H24.3.1現在)	—	171	97	0	42	10	12	10
平成24年度 (H25.3.1現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度 (H26.3.1現在)	628	596	294	70	204	38	21	39
平成26年度 (H27.3.1現在)	737	697	397	83	204	44	15	37
平成27年度 (H28.3.1現在)	777	715	418	65	211	43	8	35
平成28年度 (H29.3.1現在)	760	695	420	46	188	42	8	37
平成29年度 (H30.3.1現在)	671	615	373	48	161	29	12	40
平成30年度 (H31.3.1現在)	575	524	347	33	120	23	11	23

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など

野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	合計
11	20	5	34	50	101	119	48	136	524

(平成31年3月1日現在)

■ 全国から226人の警察官が本県へ特別出向
 被災地の安全と安心の確立のために

平成23年度から平成28年度まで1都15県から延べ226人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しました。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行いました。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

出向元	出向人数(延べ)
青森県	15
警視庁	31
埼玉県	8
神奈川県	10
山梨県	11
長野県	23
三重県	15
岡山県	17
広島県	32
徳島県	5
香川県	7
高知県	5
熊本県	18
大分県	9
宮崎県	9
沖縄県	11
合計	226

■ 医療チームの派遣
 全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMATが来援し、29都道府県の128チームがトリアージや応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、2つの県立病院がその支援を受けました。



参集したDMATによる打合せ 宮古市(平成23年3月)

■ 海外からの支援
 つなぐりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、台湾をはじめとする世界各国・地域からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。



海外からの救援隊 大船渡市(平成23年3月)

これまでいただいた支援の状況
 東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

<p>ふるさといわて応援寄付(ふるさと納税) 11億円 (平成31年2月末現在)</p> <p>三陸沿岸復興、ラグビーワールドカップ2019™を契機とした観光客受入れ等基盤整備や国際リニアコライダーの実現など、岩手の施策を実現するための資金として活用させていただいております。</p> <p>問合せ先》総務部税務課 ☎019-629-5144</p>	<p>寄附金 197億円 (平成31年3月末現在)</p> <p>被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。</p> <p>問合せ先》保健福祉部保健福祉企画室 ☎019-629-5408</p>	<p>義援金 541億円 (平成31年3月末現在)</p> <p>被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。</p> <p>問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6917</p>
<p>いわての学び希望基金 97億円 (平成31年3月末現在)</p> <p>教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。※いわての学び希望基金には、ふるさと納税からも一部が寄附されています。</p> <p>問合せ先》復興局復興推進課 ☎019-629-6922</p>	<p>活動ボランティア受入人数 延べ563,001人 (平成31年3月末現在)</p> <p>今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。</p> <p>問合せ先》岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター ☎019-637-9711</p>	<p>復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>